

【 企業 動 向 調 査 （ 製 造 業 ） 概 況 】

2024年1月～3月期の企業動向調査（市内製造業94社）を行った結果、業況判断指数D Iの平均は▲ 34.5ポイントとなりました。

前期調査結果（2023年10月～12月期：▲ 1.8ポイント）と比較して32.7ポイント悪化しました。その他経営上の問題については、「原材料価格の上昇は止まらず、製品価格への転嫁も間に合わない。」、「大手の業績好調とは真逆で一向に景気が良くなり、売り上げ利益共に減ってしまい賃上げに踏み切れない。原材料高騰や賃金 up に伴う思い切った価格転嫁も必要だが簡単ではない。」、「半導体関連の回復が遅延している。」などの意見がありました。

1. 今期調査結果は、「食品」は0ポイント、「金属」、「一般機械」、「電気機械」、「木材家具」、「その他業種」、はマイナスポイントとなりました。

業種別の業況判断前期比D I

食品	0.0	（前期比：マイナス	60.0）
金属	▲ 53.8	（前期比：マイナス	53.8）
一般機械	▲ 25.0	（前期比：プラス	5.8）
電気機械	▲ 40.0	（前期比：マイナス	28.9）
木材家具	▲ 40.0	（前期比：マイナス	23.4）
その他業種	▲ 33.4	（前期比：マイナス	55.6）

2. 次期予想D I（2024年4月～6月）

次期予想の平均は▲ 1.7ポイントで、今期調査結果の平均(▲ 34.5)より、32.8ポイント上回る予想となりました。

業種別の次期予想D I

食品	28.6	（今期比：プラス	28.6）
金属	0.0	（今期比：プラス	53.8）
一般機械	▲ 8.3	（今期比：プラス	16.7）
電気機械	▲ 10.0	（今期比：プラス	30.0）
木材家具	▲ 40.0	（今期比：プラスマイナス	0.0）
その他業種	8.4	（今期比：プラス	41.8）

3. 経営上の主な問題点

「原材料・仕入品単価の上昇」が67.8%、「受注の減少」が54.2%、「人材不足（技術者等質的なもの）」が49.2%、「労働力不足（量的なもの）」が22.0%、「同業他社との競争激化」が20.3%、「技術力の不足」が11.9%、「製品販売価格の低下」と「納期の短縮」が10.2%、「為替相場の変動」が8.5%、「人員過剰」と「金融難」が5.1%、「取引先の海外シフト化」が0.0%となっております。

企業動向調査

【2024年1月～3月期 <1期>】

【調査概要】

須坂市産業振興部産業連携開発課では、市内製造業の景気動向を探る手段として、年4回市内企業を対象にアンケート調査を実施しており、今回は2024年1月～3月期<1期>の業況について調査した。

【調査実施要領】

実施時期 2024年5月

対象企業 須坂市内または事業所を有する製造業企業 94社

回答企業数 59社（回答率 62.7%）

【調査結果】

自社業況判断（D I = 好転 - 悪化）

前期比：「好転」12.1%（前回 18.2%）、「悪化」46.6%（前回 20.0%）という割合でD Iは▲ 34.5となり、32.7ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」18.6%（前回 16.4%）、「悪化」44.1%（前回 38.2%）という割合でD Iは▲ 25.5となり、3.7ポイント悪化した。

次期予想：「好転」18.6%、「悪化」20.3%という割合でD Iは▲ 1.7（前回▲ 23.7）となり、前期より好転を予想している。

受注引合（D I = 増加 - 減少）

前期比：「増加」12.1%（前回 20.0%）、「減少」44.8%（前回 23.6%）という割合でD Iは▲ 32.7となり、29.1ポイント減少した。

前年同期比：「増加」20.3%（前回 16.4%）、「減少」44.1%（前回 36.4%）という割合でD Iは▲ 23.8となり、3.8ポイント減少した。

次期予想：「増加」15.3%、「減少」23.7%という割合でD Iは▲ 8.4（前回▲ 23.6）となり前期より増加を予想している。

生産量（D I = 増加 - 減少）

前期比：「増加」13.8%（前回 18.2%）、「減少」43.1%（前回 27.3%）という割合でD Iは▲ 29.3となり、20.2ポイント減少した。

前年同期比：「増加」19.0%（前回 14.5%）、「減少」41.4%（前回 38.2%）という割合でD Iは▲ 22.4となり、1.3ポイント増加した。

次期予想：「増加」18.6%、「減少」22.0%という割合でD Iは▲ 3.4（前回▲ 23.7）となり、前期より増加を予想している。

原材料・仕入品単価 (D I = 低下－上昇)

前 期 比：「低下」1.8% (前回 0.0%)、「上昇」50.9% (前回 29.6%) という割合で D I は▲ 49.1 となり、19.5 ポイント上昇した。

前年同期比：「低下」3.4% (前回 1.9%)、「上昇」67.2% (前回 63.0%) という割合で D I は▲ 63.8 となり、2.7 ポイント上昇した。

次 期 予 想：「低下」1.7%、「上昇」63.8% という割合で D I は▲ 62.1 (前回▲ 34.0) となり、前期より原材料・仕入単価の上昇を予想している。

製品販売価格 (D I = 上昇－低下)

前 期 比：「上昇」15.8% (前回 13.0%)、「低下」3.5% (前回 1.9%) という割合で D I は 12.3 となり、1.2 ポイント上昇した。

前年同期比：「上昇」32.8% (前回 33.3%)、「低下」3.4% (前回 5.6%) という割合で D I は 29.4 となり、1.7 ポイント上昇した。

次 期 予 想：「上昇」19.0%、「低下」10.3% という割合で D I は 8.7 (前回 7.6) となり、前期より製品販売価格の若干の上昇を予想している。

資金繰り (D I = 好転－悪化)

前 期 比：「好転」3.5% (前回 5.5%)、「悪化」24.6% (前回 18.2%) という割合で D I は▲ 21.1 となり、8.4 ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」6.8% (前回 12.7%)、「悪化」27.1% (前回 23.6%) という割合で D I は▲ 20.3 となり、9.4 ポイント悪化した。

次 期 予 想：「好転」3.5%、「悪化」17.5% という割合で D I は▲ 14.0 (前回▲ 20.7) となり、前期より資金繰りの好転を予想している。

所定外労働時間 (D I = 増加－減少)

前 期 比：「増加」10.3% (前回 11.1%)、「減少」29.3% (前回 20.4%) という割合で D I は▲ 19.0 となり、9.7 ポイント減少した。

前年同期比：「増加」8.5% (前回 9.1%)、「減少」28.8% (前回 25.5%) という割合で D I は▲ 20.3 となり 3.9 ポイント減少した。

次 期 予 想：「増加」16.9%、「減少」22.0% という割合で D I は▲ 5.1 (前回▲ 9.1) となり 前期より労働時間の若干の増加を予想している。

収 益 率 (D I = 上昇－低下)

前 期 比：「上昇」13.8% (前回 9.1%)、「低下」37.9% (前回 29.1%) という割合で D I は▲ 24.1 となり、4.1 ポイント低下した。

前年同期比：「上昇」16.9% (前回 10.9%)、「低下」37.3% (前回 34.5%) という割合で D I は▲ 20.4 となり、3.2 ポイント上昇した。

次 期 予 想：「上昇」10.2%、「低下」32.2% という割合で D I は▲ 22.0 (前回▲ 14.5) となり、前期より収益率の低下を予想している。

経営上の問題点（複数回答）

1位	原材料・仕入品単価の上昇	(→ 67.8%)
2位	受注の減少	(→ 54.2%)
3位	人材不足（技術者等質的なもの）	(→ 49.2%)
4位	労働力不足（量的なもの）	(→ 22.0%)
5位	同業他社との競争激化	(↑ 20.3%)
6位	技術力の不足	(↓ 11.9%)
7位	製品販売価格の低下	(↑ 10.2%)
7位	納期の短縮	(↓ 10.2%)
9位	為替相場の変動	(↑ 8.5%)
10位	人員過剰	(↑ 5.1%)
10位	金融難	(↓ 5.1%)
12位	取引先の海外シフト化	(↓ 0.0%)

※ 「↑」 前回の順位から上昇 「→」 前回の順位から変動なし
「↓」 前回の順位から下降

業種別自社業況判断／食品

前期比：「好転」16.7%（前回60.0%）、「悪化」16.7%（前回0.0%）という割合でD Iは0.0となり、60.0ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」42.9%（前回60.0%）、「悪化」28.6%（前回20.0%）という割合でD Iは14.3となり、25.7ポイント悪化した。

次期予想：「好転」28.6%、「悪化」0.0%という割合でD Iは28.6（前回▲20.0）となり、前期より大幅な好転を予想している。

業種別自社業況判断／金属機械

前期比：「好転」7.7%（前回15.4%）、「悪化」61.5%（前回15.4%）という割合でD Iは▲53.8となり53.8ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」15.4%（前回0.0%）、「悪化」46.2%（前回46.2%）という割合でD Iは▲30.8となり、15.4ポイント好転した。

次期予想：「好転」15.4%、「悪化」15.4%という割合でD Iは0.0（前回▲23.1）となり、前期より好転を予想している。

業種別自社業況判断／一般機械

前期比：「好転」16.7%（前回0.0%）、「悪化」41.7%（前回30.8%）という割合でD Iは▲25.0となり、5.8ポイント好転した。

前年同期比：「好転」16.7%（前回0.0%）、「悪化」50.0%（前回38.5%）という割合でD Iは▲33.3となり、5.2ポイント好転した。

次期予想：「好転」25.0%、「悪化」33.3%という割合でD Iは▲8.3（前回▲38.4）となり、前期より好転を予想している。

業種別自社業況判断／電気機械

前期比：「好転」10.0%（前回11.1%）、「悪化」50.0%（前回22.2%）という割合でDIは▲40.0となり、28.9ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」20.0%（前回11.1%）、「悪化」50.0%（前回55.6%）という割合でDIは▲30.0となり、14.5ポイント好転した。

次期予想：「好転」20.0%、「悪化」30.0%という割合でDIは▲10.0（前回0.0）となり前期より悪化を予想している。

業種別自社業況判断／木材家具

前期比：「好転」20.0%（前回16.7%）、「悪化」60.0%（前回33.3%）という割合でDIは▲40.0となり、23.4ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」20.0%（前回16.7%）、「悪化」40.0%（前回33.3%）という割合でDIは▲20.0となり、3.4ポイント悪化した。

次期予想：「好転」0.0%、「悪化」40.0%という割合でDIは▲40.0（前回0.0）となり、前期より大幅な悪化を予想している。

Q10 日銀松本支店が4月1日に発表した、企業短期経済観測調査(短観)によると、全産業の業況判断指数(DI)は、前回調査(12月)から2ポイント悪化のプラス1となり、4期ぶりの悪化となりました。非製造業(DI)は、約33年ぶりの改善でしたが、製造業は、自動車関連の生産の減少などが影響し、悪化。自社の景況感をどのように感じておられますか。

A 「好転している」5.1%、「今はないが、今後好転が見込まれる」10.2%、「変わらない」40.7%、「今はないが、今後悪化が見込まれる」18.6%、「悪化している」25.4%。

Q11 ①能登地震、台湾地震での企業活動への影響はありましたか。

A 「販売またはサービス提供に影響が生じた」3.4%、「取引先の拠点が被災した」6.8%、「影響はなかった」89.8%。

Q11 ※影響があった場合、どちらの影響を受けましたか。

A 「能登地震」11.9%、「影響なし」88.1%。

Q11 ②現時点でも能登地震、台湾地震の影響はありますか。

A 「ある」5.1%、「ない」89.8%、「無回答」5.1%。

Q12 その他経営上の問題についてご記入ください。

A 「個々の会社の問題の発端は、ほとんどが国の政策ミスによるものと思う。大きなワクでも大改革を願う。」、「工場移転に伴う生産調整や受注の減少で売り上げが落ちました。」、「電気、ガスの補助金が6月で終了すれば、製造経費の逼迫が危惧される。」、「中野市に新工場を建設中で建設後のマネジメント。」、「エネルギーコストの負荷増大、製造業には死活問題。」、「カーボンニュートラルに向けた環境活動への取り組み推進。売り手市場、人材流動化が進む中で社員採用と人材育成。」、「約束手形のサイト短縮により資金繰りが悪化する恐れあり。7月から大幅な材料値上げあり。大手は購買という産業構造があるため再三の価格転嫁は非常に難しい局面となる。」、「一年間の受注が波があり、資金繰りが厳しい時期がある。10年先の人材不足。」、「原材料の上昇。受注動向の不透明性。多品種生産による人員配置。」等。

【企業動向調査（製造業）概況】

2024年4月～6月期の企業動向調査（市内製造業94社）を行った結果、業況判断指数D Iの平均は▲ 5.2ポイントとなりました。

前期調査結果（2024年1月～3月期：▲ 34.5ポイント）と比較して29.3ポイント好転しました。その他経営上の問題については、「賃上げを予定しているが、製品価格への転嫁できない。」「悪い状況が変わらない。今後は労務費上昇分の価格転嫁の交渉が課題になる。政府は賃金を上げろだけでなく、賃金を上げさせた分の価格転嫁を発注側にも認めるようもっと声を上げてほしい。」「依然半導体関連の回復が遅れている。」などの意見がありました。

1. 今期調査結果は、「その他業種」はプラスポイント、「食品」、「一般機械」は0ポイント、「金属」、「電気機械」、「木材家具」、マイナスポイントとなりました。

業種別の業況判断前期比D I

食品	0.0	（前期比：プラスマイナス	0.0）
金属	▲ 7.2	（前期比：プラス	46.6）
一般機械	0.0	（前期比：プラス	25.0）
電気機械	▲ 30.0	（前期比：プラス	10.0）
木材家具	▲ 50.0	（前期比：マイナス	10.0）
その他業種	23.1	（前期比：プラス	56.5）

2. 次期予想D I（2024年7月～9月）

次期予想の平均は▲ 11.8ポイントで、今期調査結果の平均(▲ 5.2)より、6.6ポイント下回る予想となりました。

業種別の次期予想D I

食品	16.7	（今期比：プラス	16.7）
金属	▲ 14.3	（今期比：マイナス	7.1）
一般機械	▲ 25.0	（今期比：マイナス	25.0）
電気機械	▲ 10.0	（今期比：プラス	20.0）
木材家具	▲ 50.0	（今期比：プラスマイナス	0.0）
その他業種	0.0	（今期比：マイナス	23.1）

3. 経営上の主な問題点

「原材料・仕入品単価の上昇」が57.6%、「人材不足（技術者等質的なもの）」が45.8%、「受注の減少」が42.4%、「労働力不足（量的なもの）」が27.1%、「技術力の不足」が18.6%、「同業他社との競争激化」と「納期の短縮」が15.3%、「製品販売価格の低下」が8.5%、「取引先の海外シフト化」と「金融難」が6.8%、「為替相場の変動」が3.4%、「人員過剰」が0.0%となっております。

企業動向調査

【2024年4月～6月期 <2期>】

【調査概要】

須坂市産業振興部産業連携開発課では、市内製造業の景気動向を探る手段として、年4回市内企業を対象にアンケート調査を実施しており、今回は2024年4月～6月期<2期>の業況について調査した。

【調査実施要領】

実施時期 2024年8月

対象企業 須坂市内または事業所を有する製造業企業 94社

回答企業数 59社（回答率 62.7%）

【調査結果】

自社業況判断（D I = 好転－悪化）

前期比：「好転」17.2%（前回12.1%）、「悪化」22.4%（前回46.6%）という割合でD Iは▲5.2となり、29.3ポイント好転した。

前年同期比：「好転」22.0%（前回18.6%）、「悪化」33.9%（前回44.1%）という割合でD Iは▲11.9となり、13.6ポイント好転した。

次期予想：「好転」6.8%、「悪化」18.6%という割合でD Iは▲11.8（前回▲1.7）となり、前期より悪化を予想している。

受注引合（D I = 増加－減少）

前期比：「増加」22.0%（前回12.1%）、「減少」28.8%（前回44.8%）という割合でD Iは▲6.8となり、25.9ポイント増加した。

前年同期比：「増加」25.4%（前回20.3%）、「減少」39.0%（前回44.1%）という割合でD Iは▲13.6となり、10.2ポイント増加した。

次期予想：「増加」8.5%、「減少」20.3%という割合でD Iは▲11.8（前回▲8.4）となり前期より減少を予想している。

生産量（D I = 増加－減少）

前期比：「増加」20.3%（前回13.8%）、「減少」30.5%（前回43.1%）という割合でD Iは▲10.2となり、19.1ポイント増加した。

前年同期比：「増加」23.7%（前回19.0%）、「減少」35.6%（前回41.4%）という割合でD Iは▲11.9となり、10.5ポイント増加した。

次期予想：「増加」10.2%、「減少」20.3%という割合でD Iは▲10.1（前回▲3.4）となり、前期より減少を予想している。

原材料・仕入品単価 (D I = 低下－上昇)

前期比：「低下」0.0% (前回1.8%)、「上昇」45.6% (前回50.9%) という割合でD Iは▲45.6となり、3.5ポイント低下した。

前年同期比：「低下」0.0% (前回3.4%)、「上昇」72.4% (前回67.2%) という割合でD Iは▲72.4となり、8.6ポイント上昇した。

次期予想：「低下」3.4%、「上昇」51.7%という割合でD Iは▲48.3 (前回▲62.1)となり、前期より原材料・仕入単価の低下を予想している。

製品販売価格 (D I = 上昇－低下)

前期比：「上昇」13.8% (前回15.8%)、「低下」8.6% (前回3.5%) という割合でD Iは5.2となり、7.1ポイント低下した。

前年同期比：「上昇」29.3% (前回32.8%)、「低下」6.9% (前回3.4%) という割合でD Iは22.4となり、7.0ポイント低下した。

次期予想：「上昇」15.5%、「低下」5.2%という割合でD Iは10.3 (前回8.7)となり、前期より製品販売価格の若干の上昇を予想している。

資金繰り (D I = 好転－悪化)

前期比：「好転」8.6% (前回3.5%)、「悪化」19.0% (前回24.6%) という割合でD Iは▲10.4となり、10.7ポイント好転した。

前年同期比：「好転」12.1% (前回6.8%)、「悪化」22.4% (前回27.1%) という割合でD Iは▲10.3となり、10.0ポイント好転した。

次期予想：「好転」3.4%、「悪化」17.2%という割合でD Iは▲13.8 (前回▲14.0)となり、前期より資金繰りの若干の好転を予想している。

所定外労働時間 (D I = 増加－減少)

前期比：「増加」15.3% (前回10.3%)、「減少」22.0% (前回29.3%) という割合でD Iは▲6.7となり、12.3ポイント増加した。

前年同期比：「増加」11.9% (前回8.5%)、「減少」28.8% (前回28.8%) という割合でD Iは▲16.9となり3.4ポイント増加した。

次期予想：「増加」5.1%、「減少」11.9%という割合でD Iは▲6.8 (前回▲5.1)となり前期より労働時間の若干の減少を予想している。

収益率 (D I = 上昇－低下)

前期比：「上昇」15.3% (前回13.8%)、「低下」23.7% (前回37.9%) という割合でD Iは▲8.4となり、15.7ポイント上昇した。

前年同期比：「上昇」18.6% (前回16.9%)、「低下」32.2% (前回37.3%) という割合でD Iは▲13.6となり、6.8ポイント上昇した。

次期予想：「上昇」6.8%、「低下」20.3%という割合でD Iは▲13.5 (前回▲22.0)となり、前期より収益率の上昇を予想している。

経営上の問題点（複数回答）

1位	原材料・仕入品単価の上昇	(→ 57.6%)
2位	人材不足（技術者等質的なもの）	(↑ 45.8%)
3位	受注の減少	(↓ 42.4%)
4位	労働力不足（量的なもの）	(→ 27.1%)
5位	技術力の不足	(↑ 18.6%)
6位	同業他社との競争激化	(↓ 15.3%)
6位	納期の短縮	(↑ 15.3%)
8位	製品販売価格の低下	(↓ 8.5%)
9位	取引先の海外シフト化	(↑ 6.8%)
9位	金融難	(↑ 6.8%)
11位	為替相場の変動	(↓ 3.4%)
12位	人員過剰	(↓ 0.0%)

※ 「↑」 前回の順位から上昇 「→」 前回の順位から変動なし
「↓」 前回の順位から下降

業種別自社業況判断／食 品

前 期 比：「**好転**」0.0%（前回 16.7%）、「**悪化**」0.0%（前回 16.7%）という割合で
D Iは0.0となり、変わらない。

前年同期比：「**好転**」33.3%（前回 42.9%）、「**悪化**」16.7%（前回 28.6%）という割合で
D Iは16.6となり、2.3ポイント好転した。

次 期 予 想：「**好転**」16.7%、「**悪化**」0.0%という割合でD Iは16.7(前回 28.6)となり
前期より悪化を予想している。

業種別自社業況判断／金属機械

前 期 比：「**好転**」21.4%（前回 7.7%）、「**悪化**」28.6%（前回 61.5%）という割合で
D Iは▲7.2となり46.6ポイント好転した。

前年同期比：「**好転**」14.3%（前回 15.4%）、「**悪化**」35.7%（前回 46.2%）という割合で
D Iは▲21.4となり、9.4ポイント好転した。

次 期 予 想：「**好転**」0.0%、「**悪化**」14.3%という割合でD Iは▲14.3(前回 0.0)となり、
前期より悪化を予想している。

業種別自社業況判断／一般機械

前 期 比：「**好転**」16.7%（前回 16.7%）、「**悪化**」16.7%（前回 41.7%）という割合で
D Iは0.0となり、25.0ポイント好転した。

前年同期比：「**好転**」8.3%（前回 16.7%）、「**悪化**」41.7%（前回 50.0%）という割合で
D Iは▲33.4となり、0.1ポイント悪化した。

次 期 予 想：「**好転**」8.3%、「**悪化**」33.3%という割合でD Iは▲25.0(前回▲8.3)となり、
前期より悪化を予想している。

業種別自社業況判断／電気機械

前 期 比：「好転」10.0%（前回10.0%）、「悪化」40.0%（前回50.0%）という割合でDIは▲30.0となり、10.0ポイント好転した。

前年同期比：「好転」30.0%（前回20.0%）、「悪化」50.0%（前回50.0%）という割合でDIは▲20.0となり、10.0ポイント好転した。

次 期 予 想：「好転」0.0%、「悪化」10.0%という割合でDIは▲10.0（前回▲10.0）となり、前期と変わらないと予想している。

業種別自社業況判断／木材家具

前 期 比：「好転」0.0%（前回20.0%）、「悪化」50.0%（前回60.0%）という割合でDIは▲50.0となり、10.0ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」0.0%（前回20.0%）、「悪化」50.0%（前回40.0%）という割合でDIは▲50.0となり、30.0ポイント悪化した。

次 期 予 想：「好転」0.0%、「悪化」50.0%という割合でDIは▲50.0（前回▲40.0）となり、前期より悪化を予想している。

Q10 日銀松本支店が7月1日に発表した、企業短期経済観測調査(短観)によると、全産業の業況判断指数(DI)は、前回調査(3月)から2^割悪化のマイナス1となり、3期連続の悪化となりました。製造業は、マイナス13^割と2^割悪化し、非製造業は、プラス13^割と3^割悪化しました。自社の景況感をどのように感じておられますか。

A 「好転している」6.8%、「今はないが、今後好転が見込まれる」13.6%、「変わらない」44.1%、「今はないが、今後悪化が見込まれる」16.9%、「悪化している」18.6%。

Q11 ①原材料の高騰、円安等による経費増加分の価格への転嫁はできていますか。

A 「できている」39.0%、「できていない」55.9%、「無回答」5.1%。

Q11 ②1できていると答えた方にお聞きします。価格への転嫁率は何パーセントですか。

A 転嫁できている(23社)

「5%」3社、「8%」1社、「10%」4社、「15%」1社、「25%」1社、「50%」3社、「70%」2社、「80%」4社、「95%」1社、「回答できない(転嫁率が一律ではない)」2社。

Q12 ①従業員の賃金状況はいかがですか。

A 「今年度引き上げた、もしくは引き上げ予定」55.9%、「現状維持」28.8%、「検討中」11.9%、「回答できない（個人事業主で被雇用者がいない等）」3.4%、「無回答」3.4%。

Q12 ②1 今年度引き上げた、引き上げ予定と答えた方にお聞きします。平均の引上げ率は約何パーセントですか。

A 賃金引上げ数(33社)
「2%」2社、「3%」7社、「2~3%」1社、「4%」5社、「5%」15社、
「5.26%」1社、「8~10%」1社、「9%」1社。

Q13 その他経営上の問題についてご記入ください。

A 「工場を移転したいが資金がない。」「本社工場を9月に中野市へ移転します。」「工場移転に伴い、多額の費用が発生しました。何とか売り上げを上げていきたいところですが、売り上げが上がっていない状況です。景気の底をついた感じもします。今後に期待です。」「パート従業員の時給の引上げは、業績の悪化している現状では苦しい問題です。」「カーボンニュートラルに向けた環境対応への取組み。売り手市場、人材流動化が進む中での採用確保と人材育成。生産性向上に向けたデジタル化推進、デジタル人材育成。」「特注品の受注で仕事量を確保している状況で、各月で受注が安定しない。」「ハローワークに行ったが、高齢者しかいない。」「雇用問題。小零細企業のパート(特に低学年層)は時間軸が自由などの条件により最低賃金に近い形をとっています。パートは社員ではないので政府の意向とは別の考え方です。最低賃金UPは増税目的？社会保険料なども上がるので困りますし、実質賃金も上昇幅が小さくなってしまいます。」「大型案件等受注が増えるも工事監督者として張り付かないといけないため、次の見積先等の対応、交渉が遅れがちであり、次期の制約に影響が出てしまっている。人員フォロー課題。」「いくら原価高騰、賃金上昇といえど、商売ならば価格競争は避けられない事実。価格転嫁にも限度があり、転嫁しきれない会社は疲弊→倒産するだけ。政府は中小企業の実態を把握していないと思う。転嫁の「推進」なんて生温い指導だ。」等。

【 企業動向調査（製造業）概況 】

2024年7月～9月期の企業動向調査（市内製造業94社）を行った結果、業況判断指数D Iの平均は▲ 15.3ポイントとなりました。

前期調査結果（2024年4月～6月期：▲ 5.2ポイント）と比較して10.1ポイント悪化しました。その他経営上の問題については、「売上減少が続いている中、10月からの最低賃金アップが非常に厳しい。扶養の範囲内で収入制限のあるパートさんはやむを得ず年内に数日の休みを取らなければならず苦慮している。」、「半導体関連の回復が遅れている。」、「この数ヶ月、若手からベテランまで離職が続いている。自社も中途採用しているのである程度離職者が出るのは（世の中のバランスとして）仕方ないが、人材流出に補充が追い付いていない。」などの意見がありました。

1. 今期調査結果は、「食品」、「その他業種」はプラスポイント、「金属」、「一般機械」、「電気機械」、「木材家具」は、マイナスポイントとなりました。

業種別の業況判断前期比D I

食品	33.3	（前期比：プラス	33.3）
金属	▲ 35.7	（前期比：マイナス	28.5）
一般機械	▲ 10.0	（前期比：マイナス	10.0）
電気機械	▲ 30.0	（前期比：プラスマイナス	0.0）
木材家具	▲ 33.3	（前期比：プラス	16.7）
その他業種	8.3	（前期比：マイナス	14.8）

2. 次期予想D I（2024年10月～12月）

次期予想の平均は▲ 3.8ポイントで、今期調査結果の平均(▲ 15.3)より、11.5ポイント上回る予想となりました。

業種別の次期予想D I

食品	33.3	（今期比：プラスマイナス	0.0）
金属	▲ 14.3	（今期比：プラス	21.4）
一般機械	▲ 30.0	（今期比：マイナス	20.0）
電気機械	11.1	（今期比：プラス	41.1）
木材家具	▲ 33.3	（今期比：プラスマイナス	0.0）
その他業種	15.4	（今期比：プラス	7.1）

3. 経営上の主な問題点

「原材料・仕入品単価の上昇」が60.4%、「人材不足（技術者等質的なもの）」が49.1%、「受注の減少」が35.8%、「労働力不足（量的なもの）」が28.3%、「納期の短縮」が15.1%、「同業他社との競争激化」が13.2%「製品販売価格の低下」が11.3%、「技術力の不足」が7.5%、「人員過剰」と「取引先の海外シフト化」が5.7%、「金融難」と「為替相場の変動」が3.8%となっております。

企業動向調査

【2024年7月～9月期 <3期>】

【調査概要】

須坂市産業振興部産業連携開発課では、市内製造業の景気動向を探る手段として、年4回市内企業を対象にアンケート調査を実施しており、今回は2024年7月～9月期<3期>の業況について調査した。

【調査実施要領】

実施時期 2024年10月

対象企業 須坂市内または事業所を有する製造業企業 94社

回答企業数 53社（回答率 56.3%）

【調査結果】

自社業況判断（DI=好転-悪化）

前期比：「好転」13.5%（前回17.2%）、「悪化」28.8%（前回22.4%）という割合でDIは▲15.3となり、10.1ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」19.6%（前回22.0%）、「悪化」29.4%（前回33.9%）という割合でDIは▲9.8となり、2.1ポイント好転した。

次期予想：「好転」15.4%、「悪化」19.2%という割合でDIは▲3.8（前回▲11.8）となり、前期より好転を予想している。

受注引合（DI=増加-減少）

前期比：「増加」17.0%（前回22.0%）、「減少」26.4%（前回28.8%）という割合でDIは▲9.4となり、2.6ポイント減少した。

前年同期比：「増加」18.9%（前回25.4%）、「減少」34.0%（前回39.0%）という割合でDIは▲15.1となり、1.5ポイント減少した。

次期予想：「増加」13.2%、「減少」26.4%という割合でDIは▲13.2（前回▲11.8）となり前期より若干の減少を予想している。

生産量（DI=増加-減少）

前期比：「増加」13.2%（前回20.3%）、「減少」26.4%（前回30.5%）という割合でDIは▲13.2となり、3.0ポイント減少した。

前年同期比：「増加」18.9%（前回23.7%）、「減少」30.2%（前回35.6%）という割合でDIは▲11.3となり、0.6ポイント増加した。

次期予想：「増加」15.1%、「減少」24.5%という割合でDIは▲9.4（前回▲10.1）となり、前期より若干の増加を予想している。

原材料・仕入品単価 (D I = 低下－上昇)

前 期 比：「低下」1.9% (前回 0.0%)、「上昇」42.3% (前回 45.6%) という割合で D I は▲ 40.4 となり、5.2 ポイント低下した。

前年同期比：「低下」1.9% (前回 0.0%)、「上昇」76.9% (前回 72.4%) という割合で D I は▲ 75.0 となり、2.6 ポイント上昇した。

次 期 予 想：「低下」0.0%、「上昇」40.4% という割合で D I は▲ 40.4 (前回▲ 48.3) となり、前期より原材料・仕入単価の低下を予想している。

製品販売価格 (D I = 上昇－低下)

前 期 比：「上昇」13.7% (前回 13.8%)、「低下」0.0% (前回 8.6%) という割合で D I は 13.7 となり、8.5 ポイント上昇した。

前年同期比：「上昇」31.4% (前回 29.3%)、「低下」5.9% (前回 6.9%) という割合で D I は 25.5 となり、3.1 ポイント上昇した。

次 期 予 想：「上昇」13.7%、「低下」3.9% という割合で D I は 9.8 (前回 10.3) となり、前期より製品販売価格の若干の低下を予想している。

資金繰り (D I = 好転－悪化)

前 期 比：「好転」1.9% (前回 8.6%)、「悪化」19.2% (前回 19.0%) という割合で D I は▲ 17.3 となり、6.9 ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」7.7% (前回 12.1%)、「悪化」15.4% (前回 22.4%) という割合で D I は▲ 7.7 となり、2.6 ポイント好転した。

次 期 予 想：「好転」5.8%、「悪化」21.2% という割合で D I は▲ 15.4 (前回▲ 13.8) となり、前期より資金繰りの若干の悪化を予想している。

所定外労働時間 (D I = 増加－減少)

前 期 比：「増加」15.4% (前回 15.3%)、「減少」19.2% (前回 22.0%) という割合で D I は▲ 3.8 となり、2.9 ポイント増加した。

前年同期比：「増加」11.5% (前回 11.9%)、「減少」28.8% (前回 28.8%) という割合で D I は▲ 17.3 となり 0.4 ポイント減少した。

次 期 予 想：「増加」9.6%、「減少」23.1% という割合で D I は▲ 13.5 (前回▲ 6.8) となり前期より労働時間の減少を予想している。

収 益 率 (D I = 上昇－低下)

前 期 比：「上昇」9.8% (前回 15.3%)、「低下」27.5% (前回 23.7%) という割合で D I は▲ 17.7 となり、9.3 ポイント低下した。

前年同期比：「上昇」19.6% (前回 18.6%)、「低下」39.2% (前回 32.2%) という割合で D I は▲ 19.6 となり、6.0 ポイント低下した。

次 期 予 想：「上昇」5.9%、「低下」23.5% という割合で D I は▲ 17.6 (前回▲ 13.5) となり、前期より収益率の若干の低下を予想している。

経営上の問題点（複数回答）

1位	原材料・仕入品単価の上昇	(→ 60.4%)
2位	人材不足（技術者等質的なもの）	(→ 49.1%)
3位	受注の減少	(→ 35.8%)
4位	労働力不足（量的なもの）	(→ 28.3%)
5位	納期の短縮	(↑ 15.1%)
6位	同業他社との競争激化	(→ 13.2%)
6位	製品販売価格の低下	(↑ 11.3%)
8位	技術力の不足	(↓ 7.5%)
9位	人員過剰	(↑ 5.7%)
9位	取引先の海外シフト化	(→ 5.7%)
11位	金融難	(↓ 3.8%)
11位	為替相場の変動	(→ 3.8%)

※ 「↑」 前回の順位から上昇 「→」 前回の順位から変動なし
「↓」 前回の順位から下降

業種別自社業況判断／食品

前期比：「好転」33.3%（前回0.0%）、「悪化」0.0%（前回0.0%）という割合で
D Iは33.3となり、33.3ポイント好転した。

前年同期比：「好転」66.7%（前回33.3%）、「悪化」0.0%（前回16.7%）という割合で
D Iは66.7となり、50.1ポイント好転した。

次期予想：「好転」33.3%、「悪化」0.0%という割合でD Iは33.3（前回16.7）となり
前期より好転を予想している。

業種別自社業況判断／金属機械

前期比：「好転」14.3%（前回21.4%）、「悪化」50.0%（前回28.6%）という割合で
D Iは▲35.7となり28.5ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」15.4%（前回14.3%）、「悪化」46.2%（前回35.7%）という割合で
D Iは▲30.8となり、9.4ポイント悪化した。

次期予想：「好転」0.0%、「悪化」14.3%という割合でD Iは▲14.3（前回▲14.3）となり、
前期と変わらないと予想している。

業種別自社業況判断／一般機械

前期比：「好転」10.0%（前回16.7%）、「悪化」20.0%（前回16.7%）という割合で
D Iは▲10.0となり、10.0ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」0.0%（前回8.3%）、「悪化」40.0%（前回41.7%）という割合で
D Iは▲40.0となり、6.6ポイント悪化した。

次期予想：「好転」10.0%、「悪化」40.0%という割合でD Iは▲30.0（前回▲25.0）となり、
前期より若干の悪化を予想している。

業種別自社業況判断／電気機械

前期比：「好転」0.0%（前回10.0%）、「悪化」30.0%（前回40.0%）という割合でDIは▲30.0となり、前回と変わらない。

前年同期比：「好転」20.0%（前回30.0%）、「悪化」20.0%（前回50.0%）という割合でDIは0.0となり、20.0ポイント好転した。

次期予想：「好転」22.2%、「悪化」11.1%という割合でDIは11.1（前回▲10.0）となり、前期より好転と予想している。

業種別自社業況判断／木材家具

前期比：「好転」0.0%（前回0.0%）、「悪化」33.3%（前回50.0%）という割合でDIは▲33.3となり、16.7ポイント好転した。

前年同期比：「好転」0.0%（前回0.0%）、「悪化」33.3%（前回50.0%）という割合でDIは▲33.3となり、16.7ポイント好転した。

次期予想：「好転」0.0%、「悪化」33.3%という割合でDIは▲33.3（前回▲50.0）となり、前期より好転を予想している。

Q10 日銀松本支店が10月1日に発表した、企業短期経済観測調査（短観）によると、全産業の業況判断指数は（DI）は、前回調査（6月）と同様のマイナス1ポイントとなりました。製造業は、マイナス15ポイントと2ポイント悪化し、非製造業は、プラス14ポイントと1ポイント好転しました。自社の景況感をどのように感じておられますか。

A 「好転している」5.7%、「今はないが、今後好転が見込まれる」9.4%、「変わらない」49.1%、「今はないが、今後悪化が見込まれる」18.9%、「悪化している」17.0%。

Q11 ①DXを活用した業務効率化等に興味がありますか。

A 「興味があり、既に取り組んでいる」32.1%、「興味はあるが、取り組んでいない」35.8%、「興味がない」24.5%、「無回答」7.5%。

Q11 ②DXに取り組んでいる場合は、その内容教えてください。また、課題や次に取り組みたい内容があれば教えてください。

A 「システム人員に限りがあるので、一般社員のスキル習得、レベルアップにより簡単なシステム対応は自ら行うことができるようにしていく。（ノーコードアプリの習得）RPAの推進」、「システム導入等による業務の自動化、若手社員中心でのDX推進活動。」、「社内標準書のデジタル化など。」、「電子化は進めてきているが、DXまでには至っていない。」、「現状：施工管理、契約書、経理。課題：周知に時間がかかる。」、「生産管理システム、エビデンスの管理など。」、「ソフ

トなので小さい企業ほど初期投資の負担が大きい。初期投資しやすい、またカスタムしやすいソフトの紹介など。DXは範囲が大きすぎて夢物語講師も多いので小企業が現実的な話が聞きたい。」「設計から生産、営業・サービスを一元化するPLMデータベース構築。データ基盤を活用した生産性向上。」「経費精算・請求書処理の電子化。」「RPA活用推進。生産管理ほか各業務管理システム見直し、刷新。」「紙ベースを減らす。効率化へのシステム情報収集。」「社内各種データのデジタル化と蓄積データの活用。」「ECサイトと連携した在庫管理システムの構築。」「無料セミナーに参加して情報収集はしている。一時期よりはコストがダウンしているサービスが増えてきたように思えるがまだ踏み出してはいない。」「製品の進捗管理や経費精算等の事務処理のシステム化。」「生成AIを活用した単純業務の自動化、効率化。」等。

Q11 ③DXに取り組んでいない場合は、その理由を教えてください。

A 「何から取り組んだらいいかわからない」17.0%、「取り組みたい分野があるが、専門知識が不足している」9.4%、「取り組みたい分野はあるが、費用面に不安がある」13.2%、「取り組みたい分野があるが、人手が足りない」と「その他」7.5%「無回答」47.2%。

Q11 ③その他（理由）

A 「そもそもDXが何の略かわからない。」「社長が交代で未定。」「もう少し様子を見ながら導入を進めたい。」等。

Q11 ④DXについて学べる機会があれば、利用したいですか。

A 「利用したい」45.3%、「利用しない」35.8%、「無回答」18.9%。

Q12 その他経営上の問題についてご記入ください。

A 「賃上げも良いが可処分所得は変わらない。又は低下。ランクもあがるので社会保険料の企業負担は非常に大きい。何とかならないものか？大手のDX出来ない（見合わない）部分を中小企業が請け負っている。デジタルとアナログの融合がうまく行けば良いのだが。」「カーボンニュートラルに向けた環境対応の取組み。多様な人材の確保と活躍推進。海外市場の開拓。」「受注が低迷したまま、業界全体がなかなか上がってこない。」「従業員の高年齢化。」「人がいない。」「定年退職に合わせて技術伝承しなければならないが、若手社員とベテラン社員との間に価値観の相違があり、ベテラン社員が丁寧な指導を心がけても若手社員には理解されずに圧力と感じてしまうケースが多く、ハラスメントとなりかねない状況がある。結果、若手社員が辞めてしまったり、精神的に参ってしまうことが問題。」「新卒採用（高卒）がなかなか応募がうまくいかない。進学が・・・。」等。

【 企業動向調査（製造業）概況 】

2024年10月～12月期の企業動向調査（市内製造業94社）を行った結果、業況判断指数D Iの平均は1.7ポイントとなりました。

前期調査結果（2024年7月～9月期：▲15.3ポイント）と比較して17.0ポイント好転しました。その他経営上の問題については、「人材不足。募集してもなかなか来ない。若年層が特に来ない。」、「原材料・燃料の高騰が止まらず、価格単価にも限界感がある。」、「トランプ大統領就任後の関税の影響を心配している。」などの意見がありました。

1. 今期調査結果は、「一般機械」、「電気機械」、「その他業種」はプラスポイント、「木材家具」は0ポイント、「食品」、「金属」はマイナスポイントとなりました。

業種別の業況判断前期比D I

食品	▲ 33.3	（前期比：マイナス	66.6）
金属	▲ 21.4	（前期比：プラス	14.3）
一般機械	23.1	（前期比：プラス	33.1）
電気機械	8.3	（前期比：プラス	38.3）
木材家具	0.0	（前期比：プラス	33.3）
その他業種	15.4	（前期比：プラス	7.1）

2. 次期予想D I（2025年1月～3月）

次期予想の平均は▲12.9ポイントで、今期調査結果の平均(1.7)より、14.6ポイント下回る予想となりました。

業種別の次期予想D I

食品	▲ 33.3	（今期比：プラスマイナス	0.0）
金属	▲ 35.7	（今期比：マイナス	14.3）
一般機械	▲ 7.7	（今期比：マイナス	30.8）
電気機械	▲ 8.3	（今期比：マイナス	16.6）
木材家具	0.0	（今期比：プラスマイナス	0.0）
その他業種	7.7	（今期比：マイナス	7.7）

3. 経営上の主な問題点

「原材料・仕入品単価の上昇」が58.1%、「人材不足（技術者等質的なもの）」が56.5%、「受注の減少」が41.9%、「労働力不足（量的なもの）」が25.8%、「納期の短縮」が21.0%、「技術力の不足」が16.1%「同業他社との競争激化」が11.3%、「取引先の海外シフト化」が9.7%、「為替相場の変動」が8.1%、「製品販売価格の低下」が6.5%、「人員過剰」と「金融難」が1.6%となっております。

企 業 動 向 調 査
【 2024 年 10 月～12 月期 <4期> 】

【調 査 概 要】

須坂市産業振興部産業連携開発課では、市内製造業の景気動向を探る手段として、年4回市内企業を対象にアンケート調査を実施しており、今回は2024年10月～12月期<4期>の業況について調査した。

【調査実施要領】

実施時期 2025年1月

対象企業 須坂市内または事業所を有する製造業企業 94社

回答企業数 62社（回答率 65.9%）

【調 査 結 果】

自社業況判断（D I = 好転－悪化）

前 期 比：「好転」19.4%（前回13.5%）、「悪化」17.7%（前回28.8%）という割合でD Iは1.7となり、17.0ポイント好転した。

前年同期比：「好転」17.7%（前回19.6%）、「悪化」30.6%（前回29.4%）という割合でD Iは▲12.9となり、3.1ポイント悪化した。

次 期 予 想：「好転」12.9%、「悪化」25.8%という割合でD Iは▲12.9（前回▲3.8）となり、前期より悪化を予想している。

受 注 引 合（D I = 増加－減少）

前 期 比：「増加」21.0%（前回17.0%）、「減少」22.6%（前回26.4%）という割合でD Iは▲1.6となり、7.8ポイント増加した。

前年同期比：「増加」21.0%（前回18.9%）、「減少」37.1%（前回34.0%）という割合でD Iは▲16.1となり、1.0ポイント減少した。

次 期 予 想：「増加」9.8%、「減少」26.2%という割合でD Iは▲16.4（前回▲13.2）となり前期より若干の減少を予想している。

生 産 量（D I = 増加－減少）

前 期 比：「増加」16.4%（前回13.2%）、「減少」21.3%（前回26.4%）という割合でD Iは▲4.9となり、8.3ポイント増加した。

前年同期比：「増加」19.7%（前回18.9%）、「減少」31.1%（前回30.2%）という割合でD Iは▲11.4となり、0.1ポイント減少した。

次 期 予 想：「増加」11.5%、「減少」27.9%という割合でD Iは▲16.4（前回▲9.4）となり、前期より減少を予想している。

原材料・仕入品単価 (D I = 低下－上昇)

前期比：「低下」0.0% (前回1.9%)、「上昇」47.5% (前回42.3%) という割合でD Iは▲47.5となり、7.1ポイント上昇した。

前年同期比：「低下」0.0% (前回1.9%)、「上昇」71.2% (前回76.9%) という割合でD Iは▲71.2となり、3.8ポイント低下した。

次期予想：「低下」0.0%、「上昇」62.7%という割合でD Iは▲62.7 (前回▲40.4)となり、前期より原材料・仕入単価の上昇を予想している。

製品販売価格 (D I = 上昇－低下)

前期比：「上昇」13.1% (前回13.7%)、「低下」1.6% (前回0.0%) という割合でD Iは11.5となり、2.2ポイント低下した。

前年同期比：「上昇」37.7% (前回31.4%)、「低下」6.6% (前回5.9%) という割合でD Iは31.1となり、5.6ポイント上昇した。

次期予想：「上昇」23.0%、「低下」6.6%という割合でD Iは16.4 (前回9.8)となり、前期より製品販売価格の上昇を予想している。

資金繰り (D I = 好転－悪化)

前期比：「好転」8.1% (前回1.9%)、「悪化」14.5% (前回19.2%) という割合でD Iは▲6.4となり、10.9ポイント好転した。

前年同期比：「好転」11.3% (前回7.7%)、「悪化」17.7% (前回15.4%) という割合でD Iは▲6.4となり、1.3ポイント好転した。

次期予想：「好転」4.8%、「悪化」19.4%という割合でD Iは▲14.6 (前回▲15.4)となり、前期より資金繰りの若干の好転を予想している。

所定外労働時間 (D I = 増加－減少)

前期比：「増加」11.3% (前回15.4%)、「減少」16.1% (前回19.2%) という割合でD Iは▲4.8となり、1.0ポイント減少した。

前年同期比：「増加」12.9% (前回11.5%)、「減少」24.2% (前回28.8%) という割合でD Iは▲11.3となり6.0ポイント増加した。

次期予想：「増加」6.5%、「減少」19.4%という割合でD Iは▲12.9 (前回▲13.5)となり前期より労働時間の若干の増加を予想している。

収益率 (D I = 上昇－低下)

前期比：「上昇」8.2% (前回9.8%)、「低下」26.2% (前回27.5%) という割合でD Iは▲18.0となり、0.3ポイント低下した。

前年同期比：「上昇」14.8% (前回19.6%)、「低下」31.1% (前回39.2%) という割合でD Iは▲16.3となり、3.3ポイント上昇した。

次期予想：「上昇」3.3%、「低下」29.5%という割合でD Iは▲26.2 (前回▲17.6)となり、前期より収益率の低下を予想している。

経営上の問題点（複数回答）

1位	原材料・仕入品単価の上昇	(→ 58.1%)
2位	人材不足（技術者等質的なもの）	(→ 56.5%)
3位	受注の減少	(→ 41.9%)
4位	労働力不足（量的なもの）	(→ 25.8%)
5位	納期の短縮	(→ 21.0%)
6位	技術力の不足	(↑ 16.1%)
7位	同業他社との競争激化	(↓ 11.3%)
8位	取引先の海外シフト化	(↑ 9.7%)
9位	為替相場の変動	(↑ 8.1%)
10位	製品販売価格の低下	(↓ 6.5%)
11位	人員過剰	(↓ 1.6%)
11位	金融難	(→ 1.6%)

※ 「↑」 前回の順位から上昇 「→」 前回の順位から変動なし
「↓」 前回の順位から下降

業種別自社業況判断／食品

前期比：「好転」0.0%（前回33.3%）、「悪化」33.3%（前回0.0%）という割合で
D Iは▲33.3となり、66.6ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」16.7%（前回66.7%）、「悪化」50.0%（前回0.0%）という割合で
D Iは▲33.3となり、100.0ポイント悪化した。

次期予想：「好転」0.0%、「悪化」33.3%という割合でD Iは▲33.3（前回33.3）となり
前期より大幅な悪化を予想している。

業種別自社業況判断／金属機械

前期比：「好転」0.0%（前回14.3%）、「悪化」21.4%（前回50.0%）という割合で
D Iは▲21.4となり14.3ポイント好転した。

前年同期比：「好転」7.1%（前回15.4%）、「悪化」35.7%（前回46.2%）という割合で
D Iは▲28.6となり、2.2ポイント好転した。

次期予想：「好転」0.0%、「悪化」35.7%という割合でD Iは▲35.7（前回▲14.3）となり、
前期より悪化を予想している。

業種別自社業況判断／一般機械

前期比：「好転」23.1%（前回10.0%）、「悪化」0.0%（前回20.0%）という割合で
D Iは23.1となり、33.1ポイント好転した。

前年同期比：「好転」15.4%（前回0.0%）、「悪化」23.1%（前回40.0%）という割合で
D Iは▲7.7となり、32.3ポイント好転した。

次期予想：「好転」15.4%、「悪化」23.1%という割合でD Iは▲7.7（前回▲30.0）となり、
前期より好転を予想している。

業種別自社業況判断／電気機械

前期比：「好転」25.0%（前回0.0%）、「悪化」16.7%（前回30.0%）という割合でDIは8.3となり、38.3ポイント好転した。

前年同期比：「好転」16.7%（前回20.0%）、「悪化」33.3%（前回20.0%）という割合でDIは▲16.6となり、16.6ポイント悪化した。

次期予想：「好転」16.7%、「悪化」25.0%という割合でDIは▲8.3（前回11.1）となり、前期より悪化と予想している。

業種別自社業況判断／木材家具

前期比：「好転」25.0%（前回0.0%）、「悪化」25.0%（前回33.3%）という割合でDIは0.0となり、33.3ポイント好転した。

前年同期比：「好転」0.0%（前回0.0%）、「悪化」50.0%（前回33.3%）という割合でDIは▲50.0となり、16.7ポイント悪化した。

次期予想：「好転」25.0%、「悪化」25.0%という割合でDIは0.0（前回▲33.3）となり、前期より好転を予想している。

Q10 日銀松本支店が12月13日に発表した、企業短期経済観測調査（短観）によると、全産業の業況判断指数は（DI）は、前回調査（9月）と比較して、1ポイントプラスとなりました。製造業は、マイナス14ポイントと1ポイント好転し、非製造業は、プラス14ポイントと横ばいでした。自社の景況感をどのように感じておられますか。

A 「好転している」6.5%、「今はないが、今後好転が見込まれる」9.7%、「変わらない」48.4%、「今はないが、今後悪化が見込まれる」22.6%、「悪化している」12.9%。

Q11 セミナーや講習等、従業員に受講させたいテーマがあれば教えてください。（複数回答）

A 「設計や加工等技術的な内容に関する講習」19.4%、「顧客分析や営業活動に関する講習」11.3%、「パソコン操作等事務の基本に関する講習」12.9%、「コミュニケーション技術や意欲向上に関する講習」21.0%、「リーダーシップや組織管理等管理職向けの講習」32.3%、「業界の最新動向に関する講習」、「ビジネスマナーなど若手社員向けの研修」とともに9.7%、「採用を進めるための研修」4.8%。

Q12 問11のうち、特に受講させたいテーマについて、具体的な内容をご記入ください。

A 「電話でのマナーを含めた言葉遣いなどの基本マナー。」、「採用面接時の見極め。」、「リーダーシップや組織管理等管理職向けの講習。」、「内向的な社員に向けたコミュニケーション技術の向上を目的とした講習」、「事務に役立つExcelの講習を、実際にパソコンで

操作しながら。」「5リーダーシップや組織管理等管理職向けの講習。」「電気機器組み立て技能士受験用の講座。」「電話対応。」「管理監督者向けにリーダーとしてどんなことが必要であるかについての講習。」「同業他社の現在の状況。」「CADの講習。」「工場はモノを生産するという目的で活動しています。いいモノを作るには、チームワークが必要と考えます。チームが1つになる方法（コミュニケーション）があればいいなと思います。」「Accessの操作方法。できる者が少ないので活用方法等。」等。

Q13 問12のセミナーや講習等について、開催を希望する時期があれば、ご記入ください。

A 「3パソコン操作等事務の基本に関する講習、7ビジネスマナーなど若手社員向けの研修は4月頃。」「いつでも。」「5月～7月。」「可能であれば、月初月末を回避してほしい。」「4月（新年度や新入社員など比較的大手の動きが弱い）。」「春以降。」「冬季（10-1月）を希望します。」「決算期とダブらないような時期。」

Q14 その他経営上の問題についてご記入ください。

A 「管理職の高齢化が進む中で次世代の管理職の育成が進まないため、どう育てるか、あるいはどうやって外部から招聘するかが課題。」「新規設備導入が終わりこれからという時に受注が減少しています。営業活動強化を進めています。」「ベテラン社員から中堅社員への技術引継ぎが思うように進まない。」「1～8の項目がほとんど横ばいですが、悪化している最中の横ばいなので、事実上は悪化です。仕事量は減っているのに材料費は高く人件費も上がってしまい弊社のように作業工賃だけでやっている小企業はかなり厳しいです。」「新製品開発、海外市場開拓の取り組み加速。」「受注環境好転の兆しが見えない。」「賃上げ。物価上昇についていけない。須坂インターの産業開発もあり賃金上昇は他地域より早急な対応が必要。原資をどう作るのか。値上げはいいが生産量(販売点数)は相当減っている。＝不安定化し生産性を上げづらい。」「有能な人材が足りないが、人材確保費用の高騰に追い付けない。賃金上昇も人材紹介会社も、バランスを考えねば中小企業に人が流れてこず、休業・事業停止・企業提携が急増するだろう。」「採用難である。」「工事受注が増えて、工事現場に張り付く人間が必要で、人員が不足している。」「生成AIに絡む半導体関連は好調であるが、実際的に弊社商流の中では回復がまだまだ遅れている。」等。

